

令和5年度 利用者懇談会 於：永山図書館

日 時：令和5年12月2日（土） 午後2時から午後3時30分まで

場 所：永山公民館 学習室

出席者：利用者：1人

図書館職員：5人

図書館長、企画運営担当1主査、永山図書館長兼唐木田図書館長、永山図書館職員、
企画運営担当1職員（1人）

1. ボードゲーム体験（30分）

利用者1人、図書館職員4人で2種類のボードゲームを体験

2. 図書館について意見交換（55分）

内容（要旨）

- (1) 中央図書館の紹介
- (2) 図書館について意見交換
- (3) 閉会

(1) 中央図書館の紹介

図書館：はじめに中央図書館についてお話したい。中央図書館が開館する前は旧本館、関戸図書館、永山図書館の開架の蔵書が約10万冊、残りの4館が約4万冊所蔵していた。中央図書館は開架フロアで25万冊、地下1階にある書庫で35万冊所蔵できるようになっている。蔵書数が多い中央図書館は物流の拠点として、閉架書庫の設置、各学校や分館に本を届けるバックヤード機能などを担っており、カウンター業務のほかにもイベントの立案や図書館全体のとりまとめ等も行っている。次に利用の状況についてお話したい。10月までのデータでは、土日祝日は1日約4,000人、平日であれば1日約2,000人が来館している。本日は永山図書館で利用者懇談会を開催するため、永山図書館の話も合わせてさせていただく。永山図書館は駅に近いため、利用の特徴としては1日滞在して利用している人から通勤、通学時に立ち寄られるといった使い方をされている。永山図書館は参考図書を多く置いていたが、7月に開館した中央図書館に参考図書の多くを移したことで、空いた書架には若い人向けの雑誌や本を置きティーンズコーナーとした。また、以前から設置していた子育てに関する本を集めたコーナー「子育てのわっか」を広げ、先日の図書館協議会では、委員の方から改善されたとの評価をいただいた。今後もレイアウト変更など工夫しながら運営していきたいと考えている。また中央図書館の開館後、永山図書館の利用者数に影響がないか懸念されていたが、貸出者数の推移をみると、昨年度の利用状況と変わっていない。ただ昨年度まではコロナ禍ということもあったため、これから内部でコロナ前の数値と比較して分析していく。以上で説明は終わりとさせていただく。

(2) 図書館について意見交換

利用者： 中央図書館のパンフレットについて、カタカナで書かれているものを日本語で表してほしい。2階にあるラーニングcommonsというのはどういう意味なのか。ラーニングは学習という意味があるが、学習する広場という認識で問題ないか。

図書館： ラーニングcommonsは個人の主体的な学習だけでなく、グループディスカッションを通じて知を深める場所として設置している。大学図書館にあるラーニングcommonsとは少し意味合いが違う。多摩市立中央図書館ではグループで話し合いができる空間としてラーニングcommonsと呼んでいる。特徴として、可動式の机を置き組み替えられるようにしている。またラーニングcommonsの近くにはモバイル書架という移動式の書架がある。

(資料を見ながら説明)

モバイル書架にはホワイトボードも設置しているので、例えば大学生のイベントの打ち合わせとして活用してもらうことができる。

利用者： このラーニングcommonsでの会話は筒抜けになってしまうのではないか。

図書館： 2階は会話をしても良いフロアとしており、会話を遮るようなものは設置していないが、みなさん気にせずに勉強している。チラシを配布しているが、12月16日には話したい事を自由にスピーチする「library talks～図書館なんでもトーク～」をラーニングcommonsで実施する。

利用者： パンフレットにあるステッププラザは階段広場のようなものか

図書館： ステッププラザという言葉があるわけではないが、そのように呼んでいる。

利用者： サテライトカウンターというのはどのようなカウンターなのか。

図書館： サテライトカウンターについてもそういった言葉があるわけではないが、そのように名付けている。カウンターの役割だけでなく本の展示などもできる。

利用者： サテライトカウンターの周りに椅子を持っていても良いか。椅子に座って本を読みたい。

図書館： 一時的であれば問題ない。読み終わった後は元に戻していただけるとありがたい。サテライトカウンターは立ち止まって本を見てもらったり、そのまま借りてもらえる

ようなスペースとして位置付けているため、長時間椅子を置いておくことはご遠慮いただきたい。

利用者： サテライトカウンターには常時職員がいるわけではないのか。

図書館： 土曜日、日曜日は多くの方が図書館を利用されるため、日中は職員を配置している。平日は土日に比べ利用者が少ないため配置していない。職員の配置については今後の利用状況を鑑みて検討していく。

利用者： 私はとにかく気づいたことは遠慮せずに葉書や「やんぼとくん BOX お客様の声」に書いて伝えるようにしている。柳田邦男先生が話していた「知の地域創造」という言葉にひかれて、どんな図書館ができるのだろうと楽しみにしていた。図書館には新しいことにチャレンジしてほしいと思っている。新聞コーナーは毎日使っているが、いろんな新聞が置いてあるため、その分、色々な考え方が分かってありがたい。照度の基準を満たしていると言うことだが、欲を言えばもう少し明るくしてほしい。また以前、足が悪い高齢者が座って自由に新聞を見ることができスペースを作してほしいと要望した際、早急に対応してくれた。実際にバックナンバーをそのスペースに持ち込んで読んでいる人がいるため改善されてよかったと思う。中央図書館はいろいろな新聞を見ることができ、2階にはカフェがあって、さらに公園も見られて本当に至れり尽くせりだと思う。中央図書館の周りには坂道も多く、向かうだけでも十分な運動量になるので、あのような造りにしていただけたのはとてもありがたい。今後は公園の近くに子ども広場のようなものがあると良いと思う。また私がずっと思っていることは市民自治基本条例を早く入り口に掲示してほしい。また中央図書館開館イベントが一段落して、これから中央図書館がどこに視点を向けて新しいことに挑戦していくかに注目している。ボランティアとして市民も一緒に何か行うことで意思疎通ができてより良くなっていくと思っている。ほかにも貧困や生きづらさを感じている若者やカフェれすとモモで働く人達にも焦点を当て、支えていく図書館であってほしいと思う。また工事が終わり、公園と図書館をつなぐ道が通れるようになったが、そこで自転車に乗って走っている人がいた。あそこは小さい子も通るし、見逃すことで自転車に乗って走行する人が増えてしまう。すでに「自転車降りて通行してください」の表示はされているが、小さいためなるべく早く表示を大きくしてほしい。また常々感じているが窓口の職員はとても親切だと思う。探している資料もすぐに見つけてくれるし、わからないことは担当者呼びに行き対応してくれるし、その点ではかなり使いやすい。もう一点言わせてもらおうと、「やんぼとくん BOX お客様の声」に要望を書いてもレスポンスがないのが残念である。2階に設置しているティーンズボードには利用者からの質問に答えているし、できないことはないのではないか。こういったやり取りを行うことで親近感がわくし、市民との交流にもなるから良いのではないかと。

ボードに張り出すことで、質問した人だけでなくそのボードを見た人も図書館の考えが分かる。

図書館： まず「やんばとくんBOX お客様の声」については職員間で供覧し、改善できるものは速やかに対応するようにしている。回答を希望される場合は「市政への提言」をご利用いただきたいと思う。ティーンズボードは図書館を利用する若い人たちとの交流を目的としているため、主旨とは少し違うが、いただいたご意見とその回答を掲示板として表示することは今後検討していきたい。

利用者： 意見やクレームだけでなく職員への感謝も伝えられるため、ぜひ作成してほしい。また掲示板を見て図書館の方針も理解することができ、職員と利用者がより近くなると思う。

図書館： 掲示板の話は図書館協議会でも出ていた。今回のご意見を受け、掲示板の設置について検討していく。

利用者： 最近、図書館協議会というのを知った。議事録について、作成に時間がかかるのは仕方と思うが、せめて当日の資料だけでも翌日にファイルへ綴ってほしい。また開催日についても情報がつかみにくい。

図書館： 当日の資料は速やかにファイルするようにする。図書館協議会の開催日については図書館ホームページに掲載しているが、デジタルサイネージへの掲載や会場の掲示等館内での広報も検討していく。

利用者： 図書館協議会の名簿が紙でファイルに綴られていないのも不満。図書館ホームページには掲載されているが、情報が少ないため役職や資格等、少しでも良いから追記してほしい。また2階で図書館開館50周年を記念したメッセージを展示しているが、やまばと通信に掲載するべきだと思う。図書館に関わる方の貴重なメッセージで、今後の図書館への期待も込められていると思うから、多くの方に見てもらえると良い。

図書館： 図書館50周年メッセージ展示は、図書館内で掲示することを了承いただいた上でメッセージを作成し、各図書館で巡回展示を行っている。やまばと通信や冊子等に掲載するためには改めて了承をいただく必要があるが、とても良いアイデアだと思う。

利用者： メッセージが少しでも図書館運営の役に立てば良いと思うし、せっかく立派な図書館ができたわけだから、職員だけでなく市民も含めみんなで頑張っていきたい。

図書館： お話を聞いていて、図書館協議会委員の方のプロフィールや委員がおすすめする本等をやまばと通信で掲載するのも良いと感じた。図書館協議会について、資料だと感心のある方しか読まれないし、そもそも図書館協議会という組織を知らない方もいる。そういった市民に向けて広報していく必要があると感じた。また自転車の注意喚起の掲示については今回のご意見を所管課に伝える。

利用者： 一人がルールを破ると他の人も真似してしまうので、早急な対応をお願いしたい。あと図書館カフェについてお聞きしたい。去年は認知症専門医と精神保健福祉士が同席し、認知症という言葉キーワードとしていた。しかし今年は認知症から高齢者という言葉に代わっており、対象年齢も60歳に引き下げられていた。精神科の医師がなぜ参加するのか教えていただきたい。目的の1つには回想療法というのもあると思うが。また図書館から飲み物が用意されたことも驚いた。

図書館： 図書館カフェは昨年から開催している。飲み物については場の雰囲気を作るために用意した。図書館としては高齢になっても長く使い続けてほしいという思いがある。高齢になって本を調べたり、図書館に行くのが億劫に感じる方が多くいる。図書館カフェはそんな方々に再び図書館を利用するきっかけとなるように実施しているイベントである。回想療法や認知症に重きを置いているわけではない。

利用者： 精神科の医師が参加することを否定しているわけではないが、むしろサロンのようなものに広げて開催した方が良いのではないか。図書館が場所を貸すことで、本の感想や図書館のこれからについて話すことができる。

図書館： 地域について話し合うサロンとは異なるが、今年度であれば作家について自由に話し合うイベントを中央図書館で開催している。

利用者： 本と結び付けたいという気持ちがあるなら、イベントの会場に高齢者向けの本や図書館職員おすすめの本、最近人気の本等を5、6冊程度展示したほうが良い。もっと気楽に立ち寄ることができて、いろんな人と交流できる図書館になってほしい。中央図書館が開館してから、色々なイベントや地域の書店とのコラボを行っていて、私を含め市民は本当に助かっていると思う。

図書館： 今回、様々なご意見を聞くことができ、多くのヒントをいただくことができました。これからも引き続き図書館を利用していただきたいと思う。

(閉会)